

第4章

地区別分析

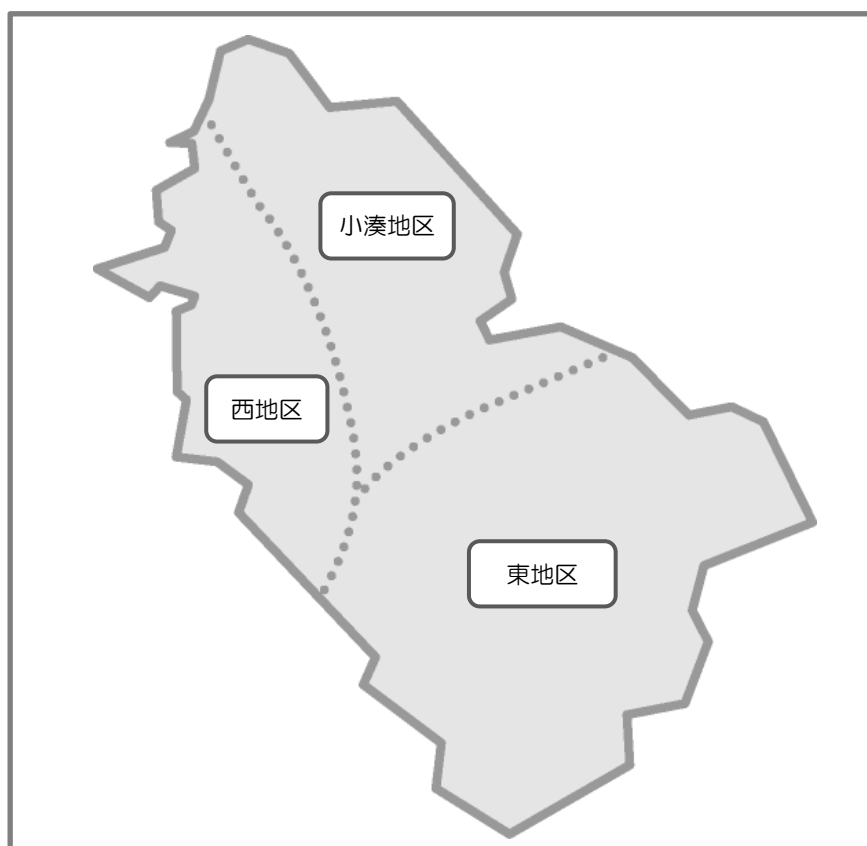
第4章 地区別分析

第4章は調査結果から3つの地区別に町全域と比較しながら、高齢者の健康自立度や生活実態、地域の活動やたすけあいの状況など、各地区の地域特性を分析しました。

地区名	総人口 (人)	高齢者人口 (人)	高齢化率 (%)	前期高齢者 (人)	後期高齢者 (人)	後期高齢者率 (%)
町全域	10,898	4,309	39.5	2,207	2,102	19.3
小湊地区	6,685	2,621	39.2	1,363	1,258	18.8
東地区	2,123	872	41.1	413	459	21.6
西地区	2,090	816	39.0	431	385	18.4

地区名	一般高齢者 (人)	要支援 認定者 (人)	要介護 認定者 (人)	認定率 (%)	重度認定者 (要介護3~5) (人)	重度認定者 認定率 (%)
町全域	3,627	91	591	15.8	265	6.1
小湊地区	2,237	53	331	14.7	158	6.0
東地区	702	20	150	19.5	61	7.0
西地区	688	18	110	15.7	46	5.6

※上記の数値は令和元年12月1日現在

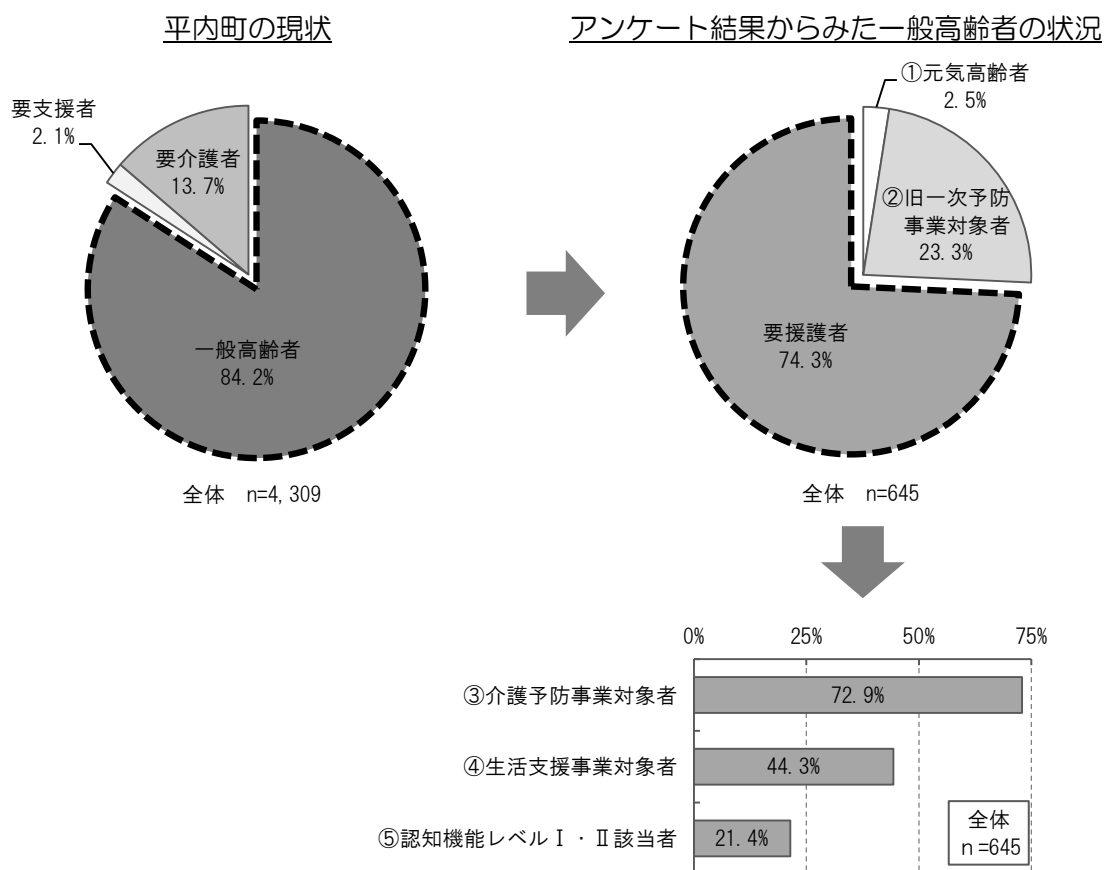


1 “5つの高齢者像” からみた地域分析

本町における令和元年12月現在の認定者数は682人（認定率15.8%）となり、認定者を除いた一般高齢者数は3,627人と高齢者人口の8割以上を占めています。

また、調査結果から高齢者像別に出現率をみると、「要援護者」は74.3%、「旧一次予防事業対象者」は23.3%、「元気高齢者」は2.5%となっています。

図 4.1 高齢者像別出現率

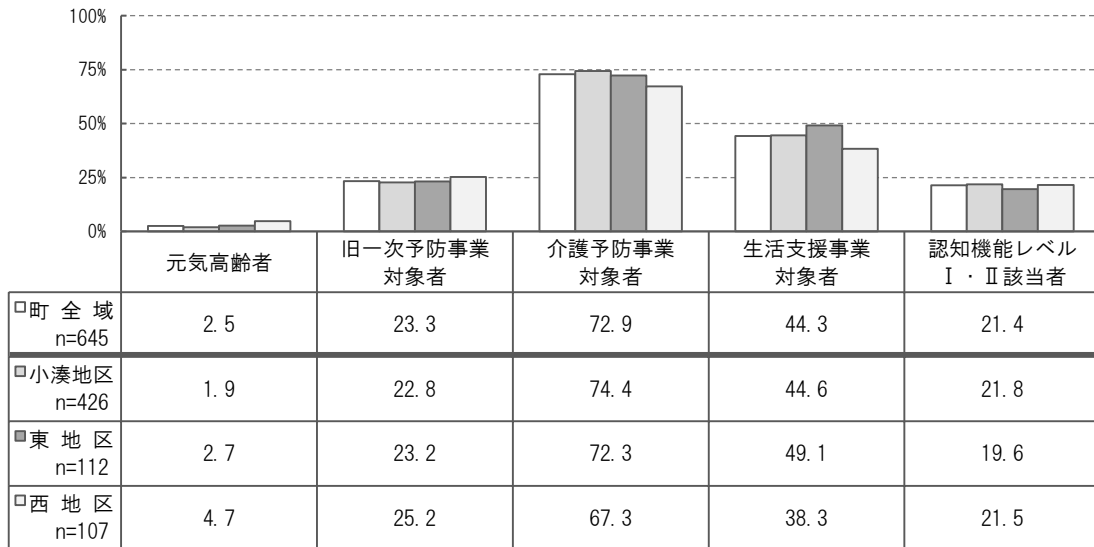


※介護予防事業対象者、生活支援事業対象者認知機能レベル I・II 該当者には重複があります。

※「旧一次予防事業対象者」…一般高齢者から元気高齢者や要援護者（介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能レベル I・II 該当者）を除いた高齢者です。

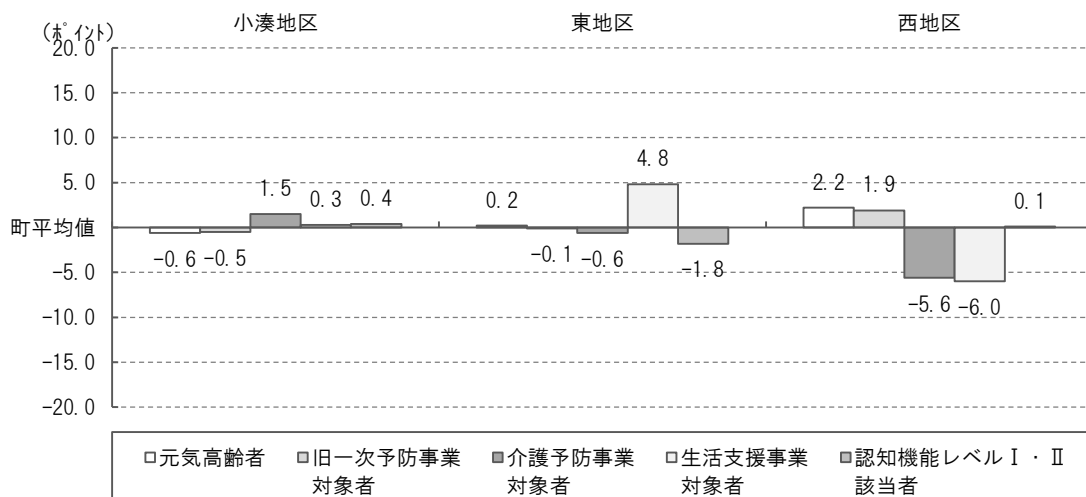
- 5つの高齢者像別出現率の地域差をみると、「元気高齢者」は西地区・東地区が町平均値より高く、小湊地区が低くなっています。
- 「旧一次予防事業対象者」は西地区が町平均値より高く、小湊地区・東地区が低くなっています。
- 要援護者をみると、町平均値より高い地区は、小湊地区がすべて上回り、「生活支援事業対象者」が東地区、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」が西地区となっています。

図 4.2 5つの高齢者像別出現率



※「旧一次予防事業対象者」…一般高齢者から元気高齢者や要援護者(介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者)を除いた高齢者です。

図 4.3 5つの高齢者像別出現率の地域差



※町全域の出現率を町平均値(0.0)とします。

2 介護予防・日常生活支援総合事業に関する出現率と地域差

(1) 介護予防事業対象者の状況

- 「介護予防事業対象者」の出現率をみると、町全域は一般高齢者が72.9%、要支援者が90.6%となっています。
- 「介護予防事業対象者」の出現率の地域差をみると、一般高齢者は、小湊地区が町平均値より1.5ポイント高く、西地区が5.6ポイント、東地区が0.6ポイント低くなっています。
- 要支援者は、西地区が町平均値より2.3ポイント高く、小湊地区が0.9ポイント、東地区が0.6ポイント低くなっています。

図 4.4 介護予防事業対象者出現率

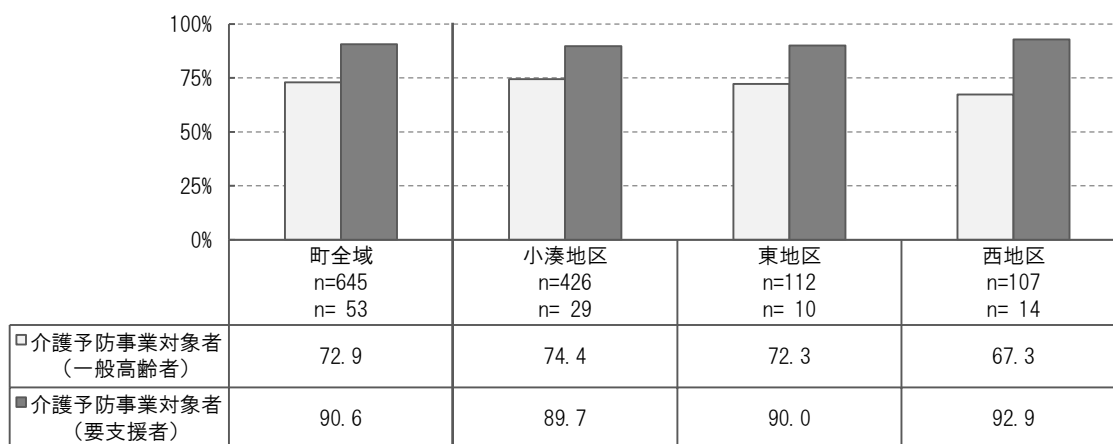
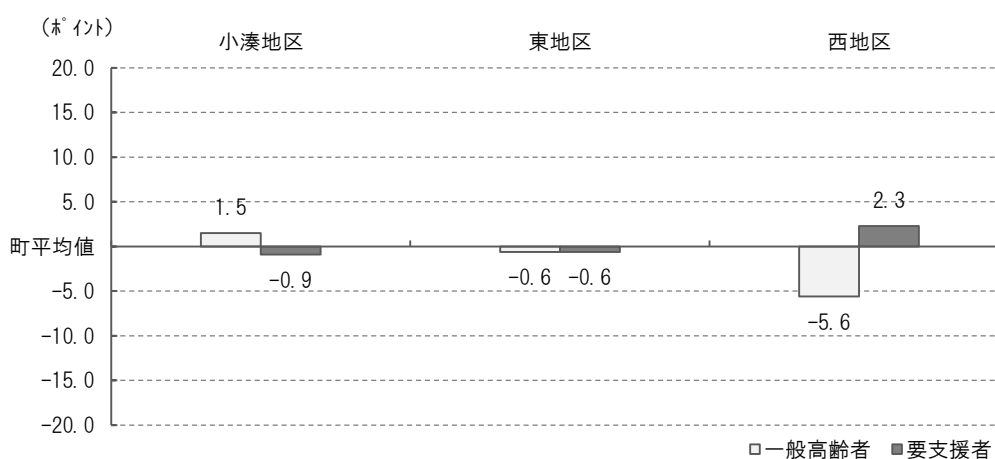


図 4.5 介護予防事業対象者出現率の地域差



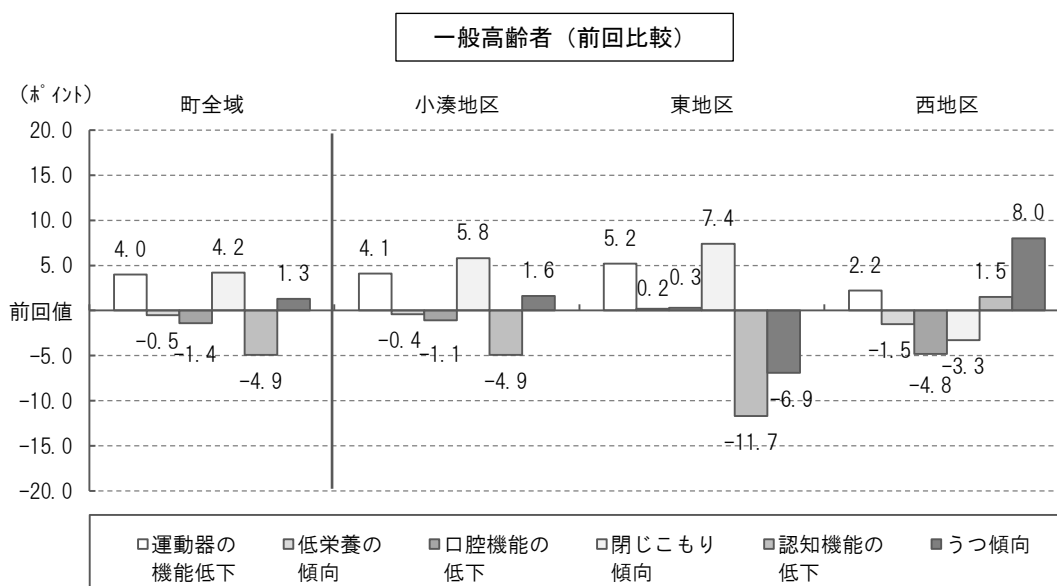
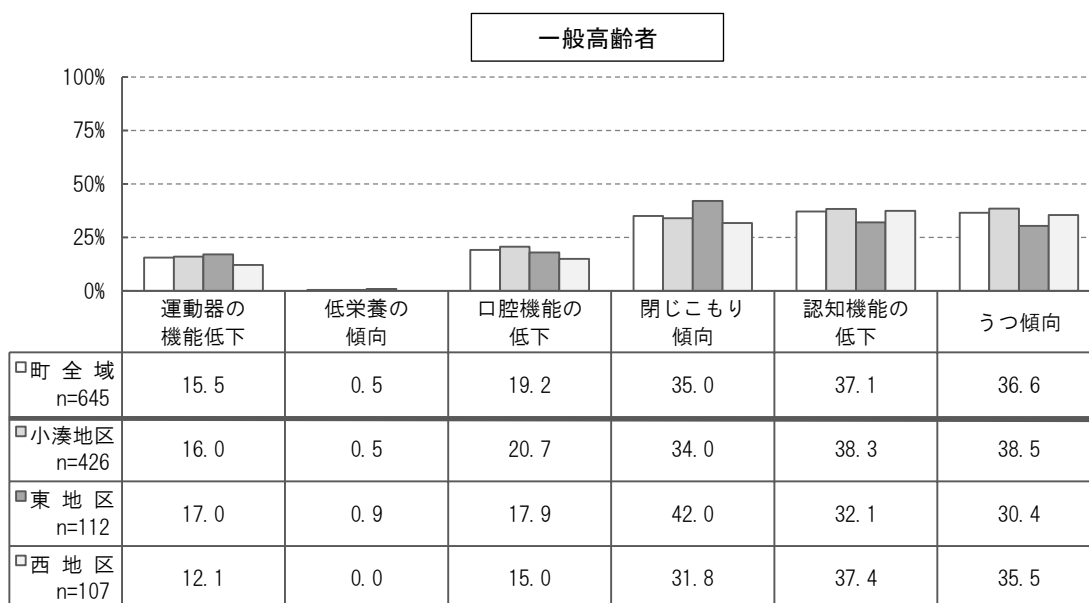
(2) リスクに該当する高齢者の状況

○一般高齢者における各リスク該当高齢者の出現率をみると、町全域では「認知機能の低下」(37.1%)が最も高く、次いで「うつ傾向」(36.6%)、「閉じこもり傾向」(35.0%)、「口腔機能の低下」(19.2%)、「運動器の機能低下」(15.5%)、「低栄養の傾向」(0.5%)となっています。

○地区別にみると、小湊地区は「うつ傾向」「認知機能の低下」「口腔機能の低下」「運動器の機能低下」、東地区は、「閉じこもり傾向」「運動器の機能低下」「低栄養の傾向」、西地区は「認知機能の低下」が町全域を上回っています。

○前回調査と比較すると、町全域は、「閉じこもり傾向」が4.2ポイント、「運動器の機能低下」が4.0ポイント、「うつ傾向」が1.3ポイント高くなっています。地区別にみると、小湊地区は町全域と同様のリスクが高くなり、東地区の「閉じこもり傾向」「運動器の機能低下」、西地区の「うつ傾向」が前回値より特に高い状況です。

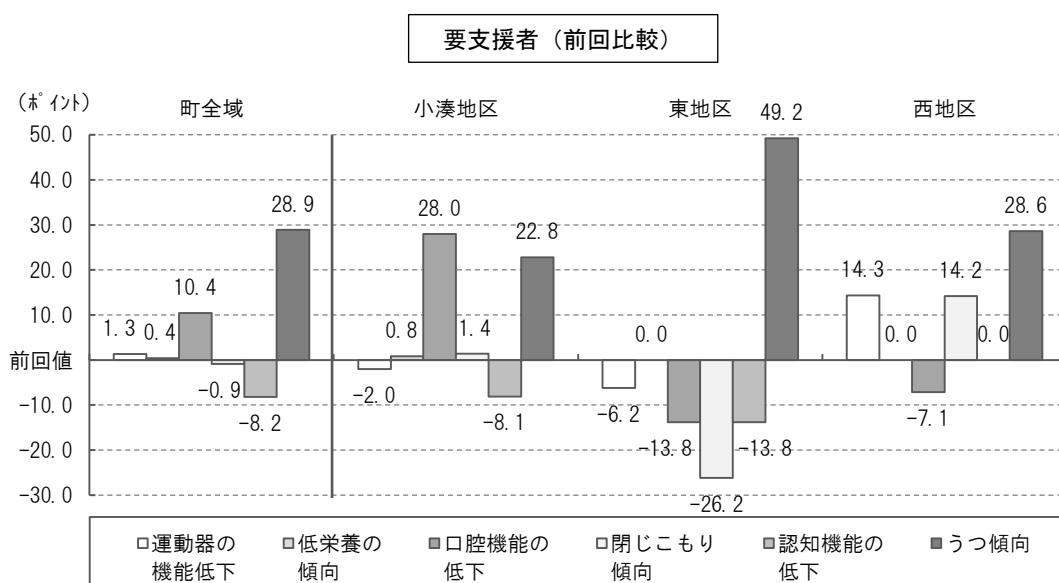
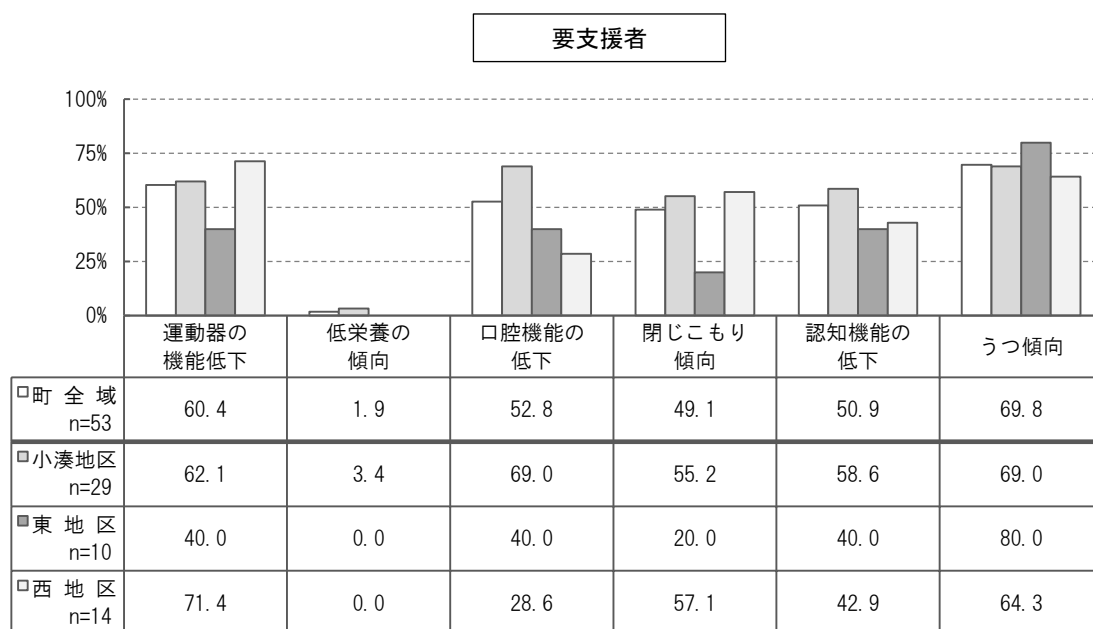
図 4.6 リスクに該当する高齢者の出現率



○要支援者における各リスク該当高齢者の出現率をみると、町全域は「うつ傾向」(69.8%)が最も高く、次いで「運動器の機能低下」(60.4%)、「口腔機能の低下」(52.8%)、「認知機能の低下」(50.9%)、「閉じこもり傾向」(49.1%)、「低栄養の傾向」(1.9%)となっています。

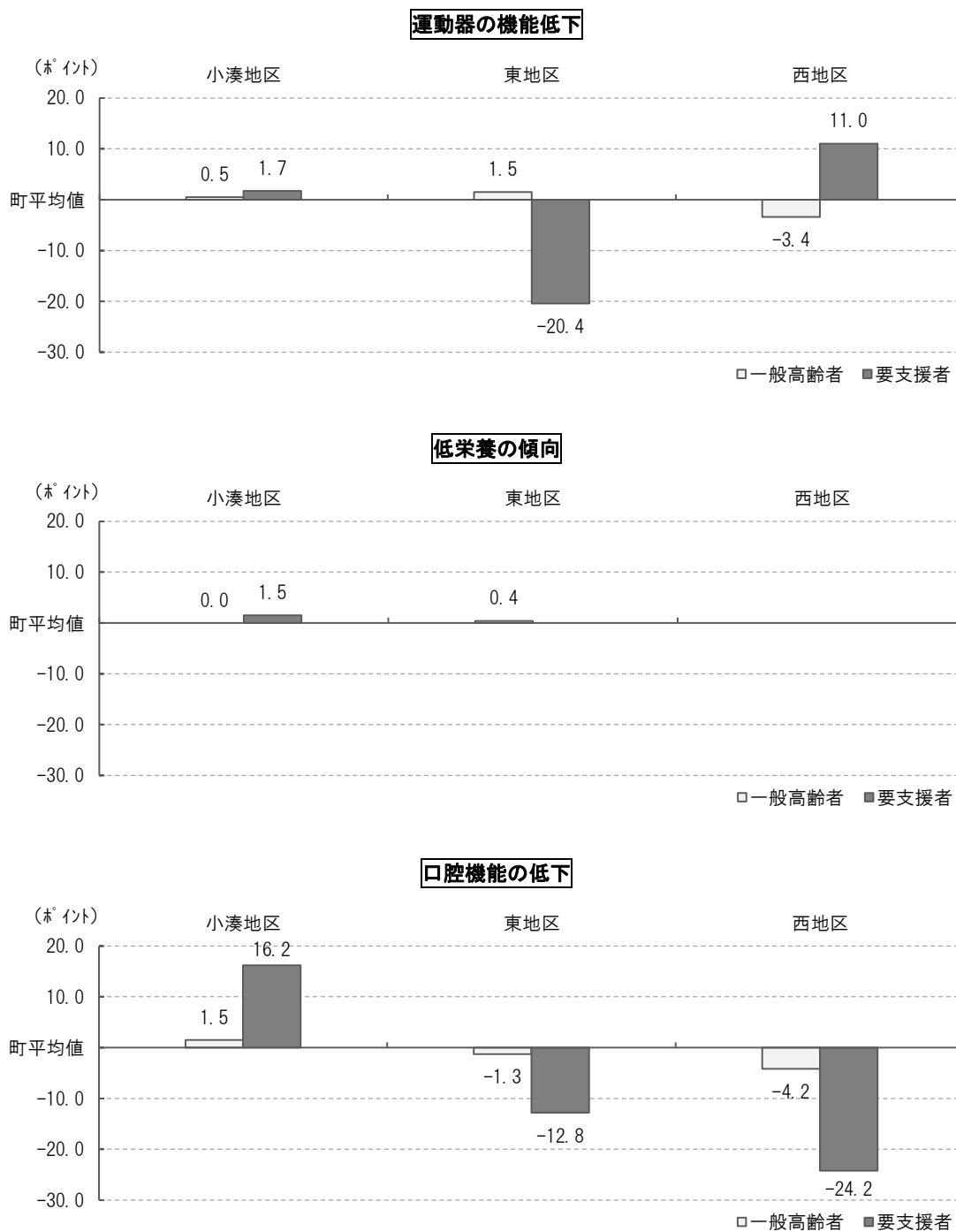
○地区別にみると、小湊地区は「うつ傾向」を除いたリスクが町全域を上回っています。東地区は「うつ傾向」、西地区は「運動器の機能低下」「閉じこもり傾向」が町全域を上回っています。

○前回調査と比較すると、町全域は、「うつ傾向」が28.9ポイント、「口腔機能の低下」が10.4ポイント高くなっています。地区別にみると、小湊地区の「口腔機能の低下」「うつ傾向」、東地区の「うつ傾向」、西地区の「うつ傾向」「運動器の機能低下」「閉じこもり傾向」が前回値より特に高い状況です。



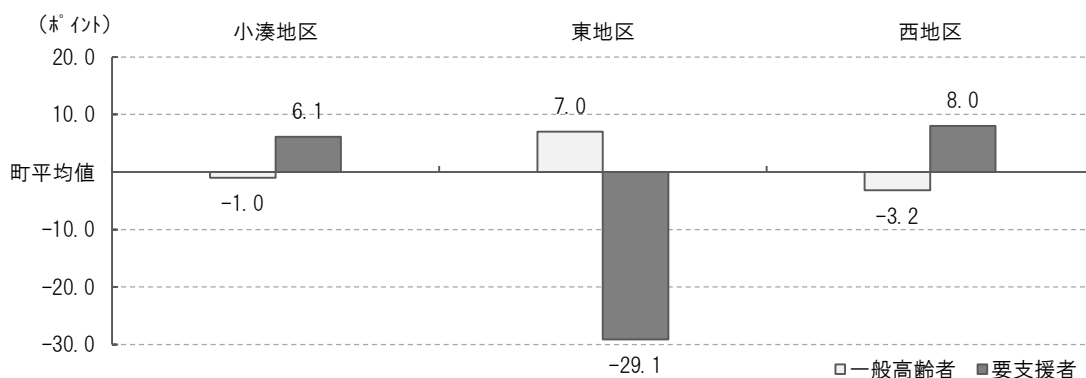
- 出現率の地域差をリスクごとにみると、「運動器の機能低下」の一般高齢者は東地区・小湊地区、要支援者は西地区・小湊地区が町平均値より高くなっています。
- 「低栄養の傾向」の一般高齢者は東地区、要支援者は小湊地区が町平均値より高くなっています。
- 「口腔機能の低下」は一般高齢者・要支援者ともに小湊地区が町平均値より高くなっています。

図 4.7 リスク者出現率の地域差

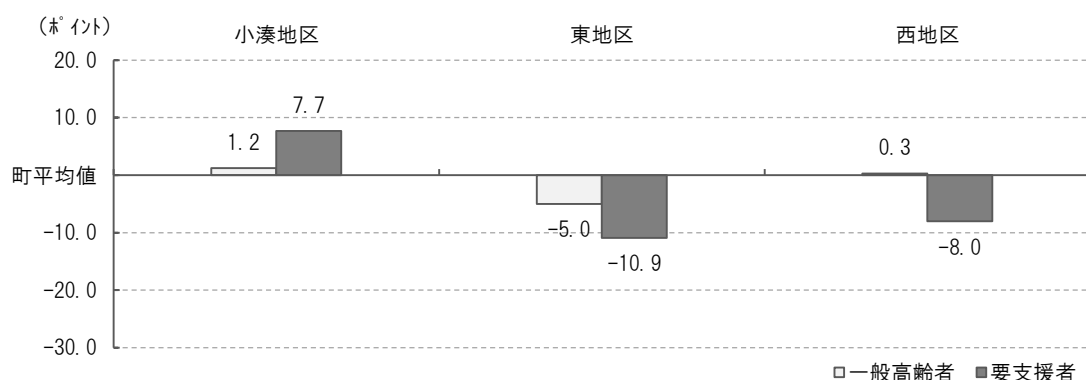


- 「閉じこもり傾向」の一般高齢者は東地区、要支援者は西地区・小湊地区が町平均値より高くなっています。
- 「認知機能の低下」の一般高齢者は小湊地区・西地区、要支援者は小湊地区が町平均値より高くなっています。
- 「うつ傾向」の一般高齢者は小湊地区、要支援者は東地区が町平均値より高くなっています。

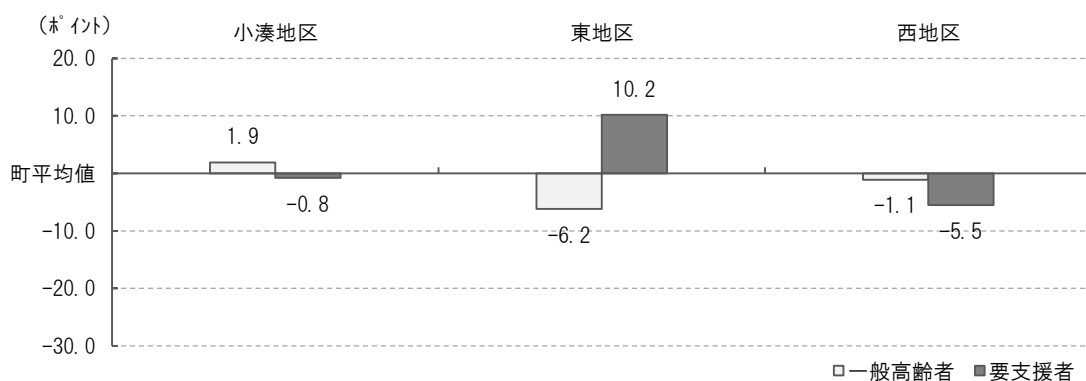
閉じこもり傾向



認知機能の低下



うつ傾向



(3) 生活支援事業対象者の状況

- 「生活支援事業対象者」の出現率をみると、町全域は一般高齢者が44.3%、要支援者が77.4%となっています。
- 「生活支援事業対象者」の出現率の地域差をみると、一般高齢者は東地区が町平均値より4.8ポイント高くなっています。
- 要支援者は西地区が町平均値より8.3ポイント、東地区が2.6ポイント高くなっています。

図 4.8 生活支援事業対象者出現率

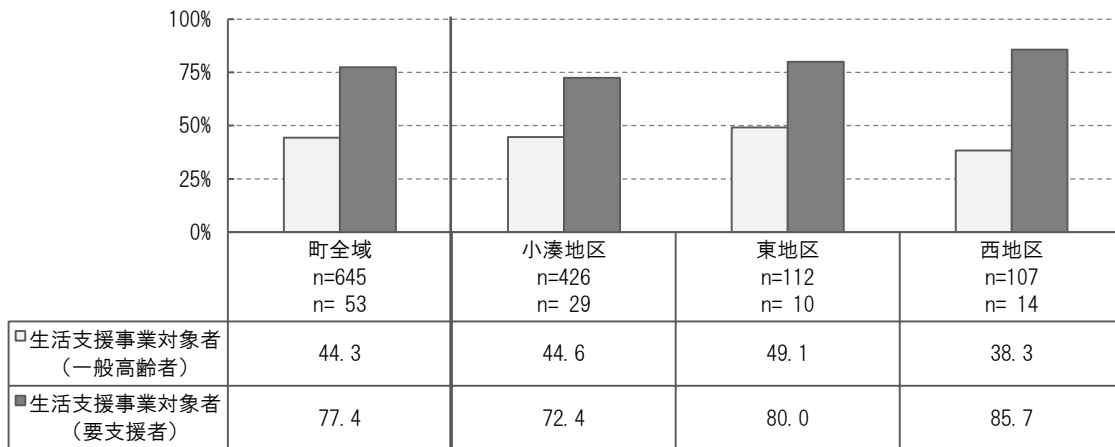
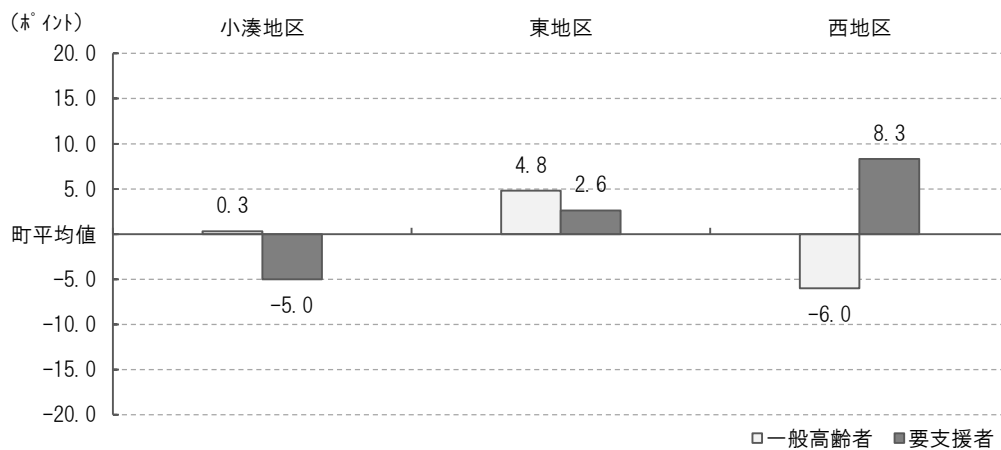


図 4.9 生活支援事業対象者出現率の地域差



(4) 生活支援を担う元気高齢者の状況

- 「元気高齢者」の出現率をみると、町全域は2.5%となっています。
- 「元気高齢者」の出現率の地域差をみると、西地区が町平均値より2.2ポイント、東地区が0.2ポイント高くなっています。

図 4.10 元気高齢者出現率

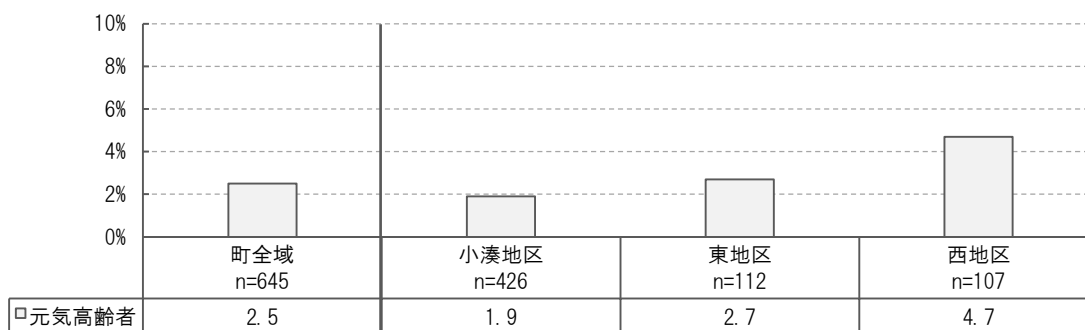


図 4.11 元気高齢者出現率の地域差



3 認知症高齢者に関する出現率と地域差

(1) 認知機能レベル I・II 該当者の状況

- 「認知機能レベル I・II 該当者」の出現率をみると、町全域は一般高齢者が21.4%、要支援者が56.6%となっています。
- 「認知機能レベル I・II 該当者」の出現率の地域差をみると、一般高齢者は小湊地区が町平均値より0.4^{ポイント}、西地区が0.1^{ポイント}高くなっています。
- 要支援者は小湊地区が町平均値より5.5^{ポイント}高くなっています。

図 4.12 認知機能レベル I・II 該当者の出現率

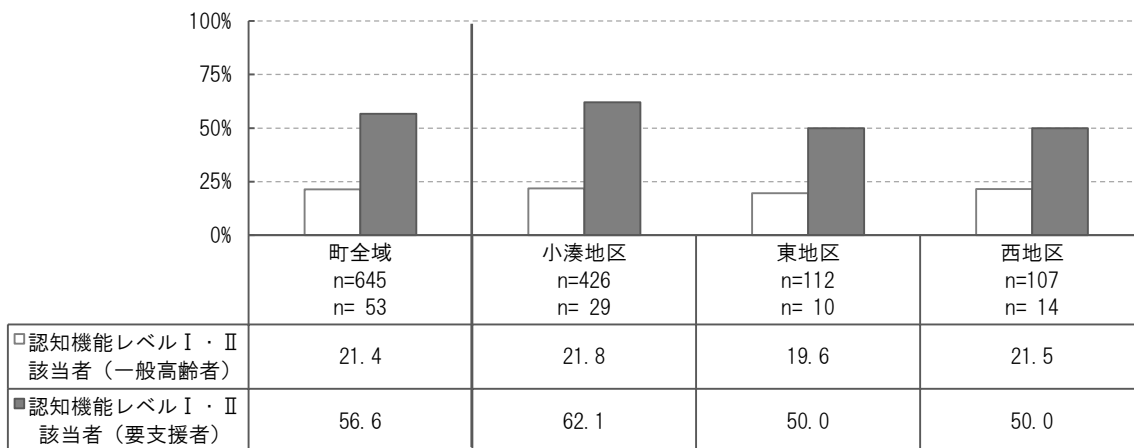
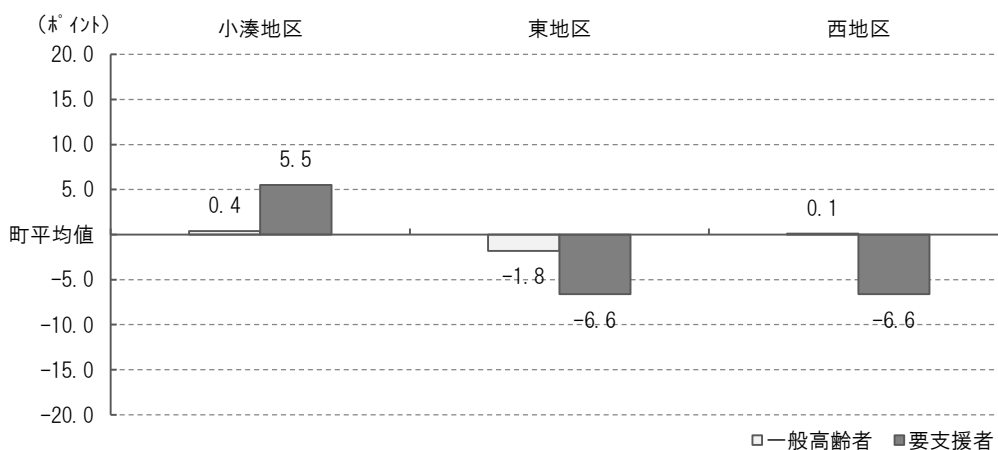


図 4.13 認知機能レベル I・II 該当者出現率の地域差



4 地域資源等の把握

(1) 地域活動への参加状況

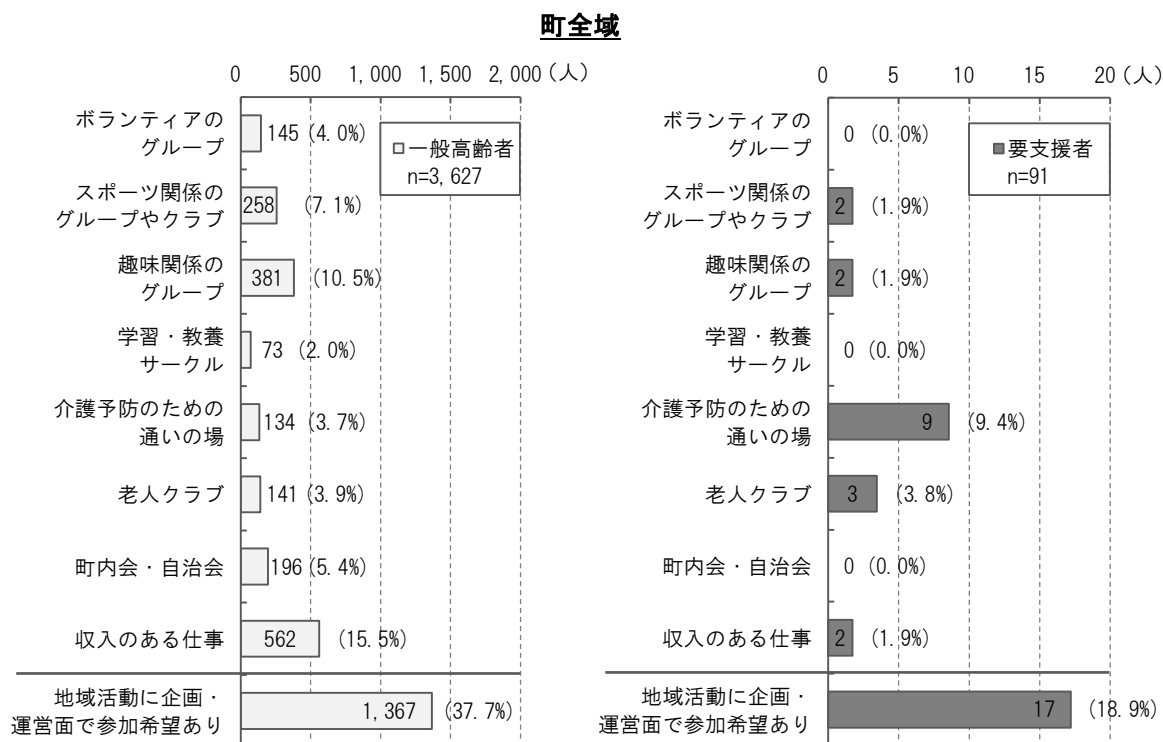
○一般高齢者の地域活動への参加状況をみると、町全域は「収入のある仕事」(15.5%)が最も高く、次いで「趣味関係のグループ」(10.5%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(7.1%)、「町内会・自治会」(5.4%)となっています。小湊地区は上位4位に同様の活動が入っています。

○要支援者は、すべての地区で「介護予防のための通いの場」が高くなっています。

○地域活動への企画・運営面での参加希望を地区別にみると、一般高齢者は東地区・西地区(43.8%・45.8%)が町全域(37.7%)より高く、小湊地区(34.0%)は低くなっています。

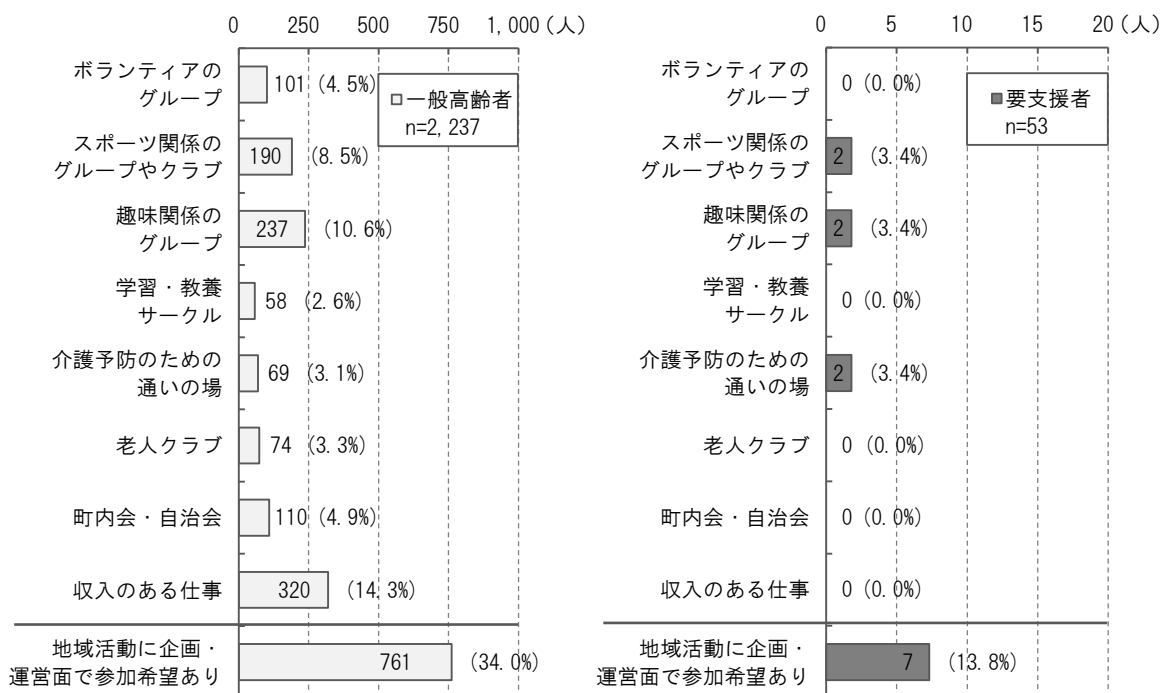
○要支援者は、西地区(35.7%)が町全域(18.9%)より高く、小湊地区・東地区(13.8%・10.0%)は低くなっています。

図 4.14 高齢者の地域活動への参加状況（推計）

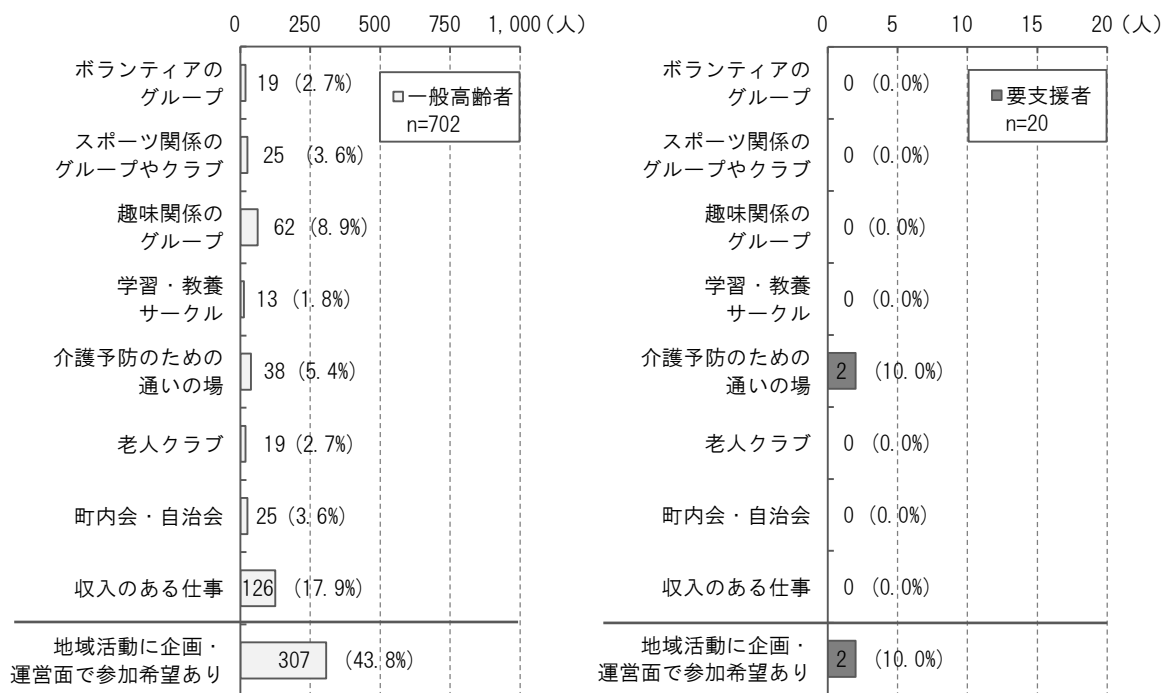


※問5(1)①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5(3)地域活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」に回答した割合です。

小湊地区

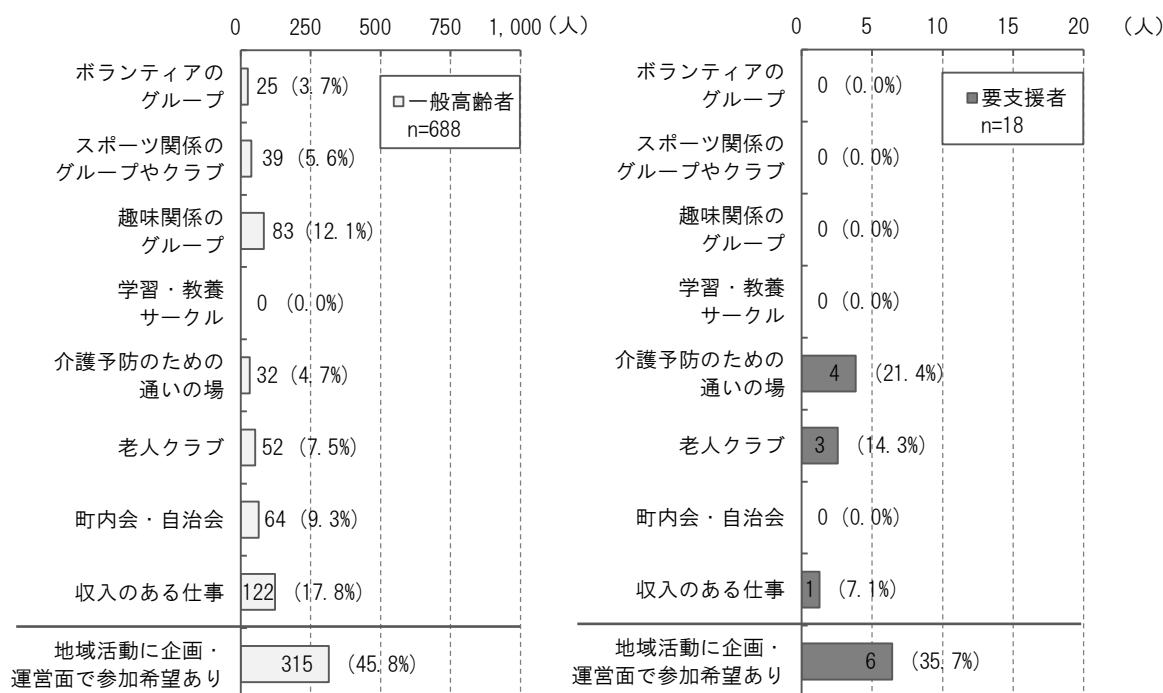


東地区



※問5(1)①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5(3)地域活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」に回答した割合です。

西地区

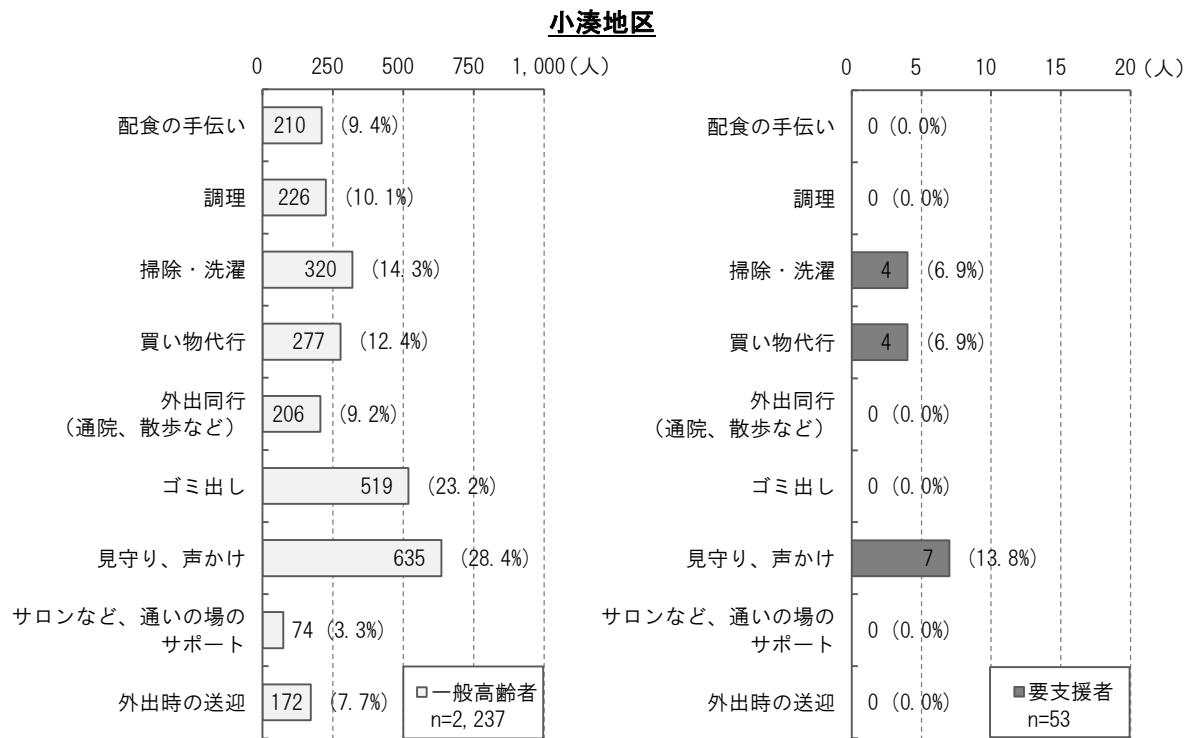
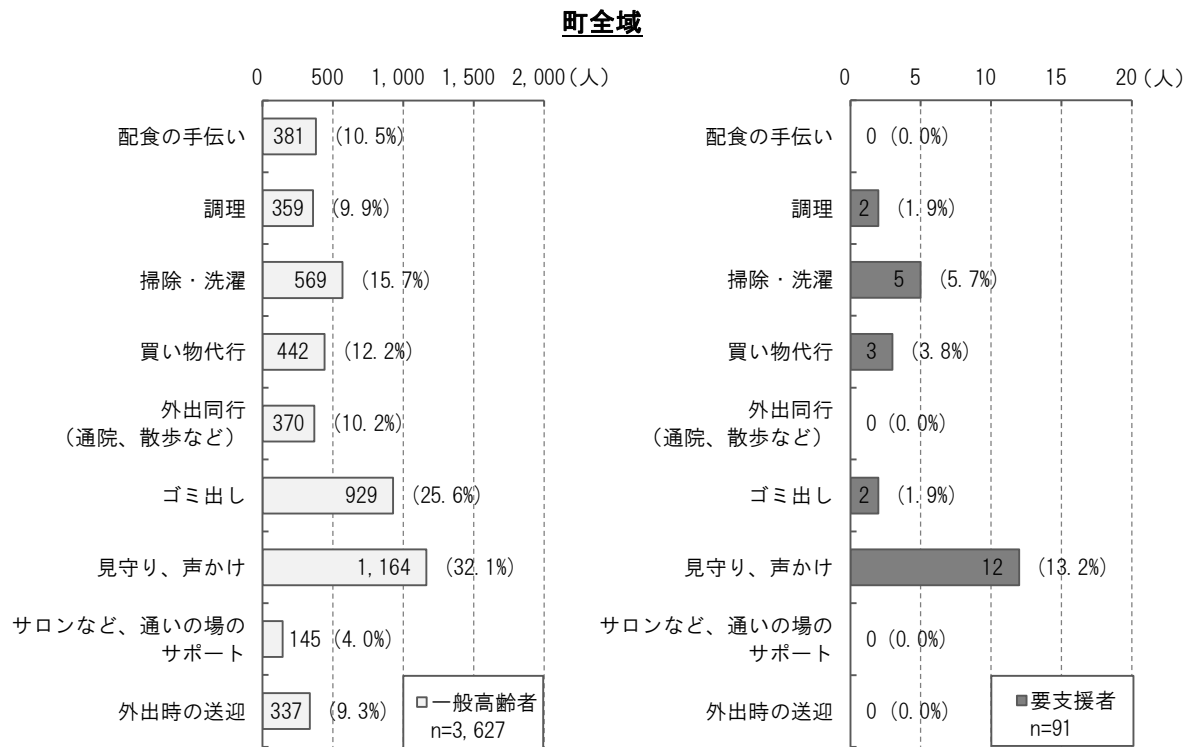


※問5(1)①ボランティア、②スポーツ関係、③趣味関係、④学習・教養、⑤介護予防のための通いの場、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会、⑧収入のある仕事で、「週4回以上」～「月に1～3回」のいずれかに回答した割合、また、問5(3)地域活動の企画・運営に「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」に回答した割合です。

(2) 住んでいる地域で高齢者ができる支援

- 一般高齢者が地域でできる支援をみると、町全域では「見守り、声かけ」(32.1%)が最も高く、次いで「ゴミ出し」(25.6%)、「掃除・洗濯」(15.7%)、「買い物代行」(12.2%)、「配食の手伝い」(10.5%)、「外出同行(通院、散歩など)」(10.2%)となっています。
- 要支援者は、「見守り、声かけ」(13.2%)が最も高く、次いで「掃除・洗濯」(5.7%)、「買い物代行」(3.8%)となっています。
- 地区別にみると、一般高齢者は、すべての地区で「見守り、声かけ」(40.2～28.4%)、「ゴミ出し」(32.7～23.2%)、「掃除・洗濯」(19.6～14.3%)が上位3位を占めています。また、東地区・西地区では、町全域上位3位の割合をいずれも上回り、小湊地区ではいずれも下回っています。
- 要支援者をみると、小湊地区・西地区は「見守り、声かけ」、東地区は「調理」「見守り、声かけ」の割合が高くなっています。

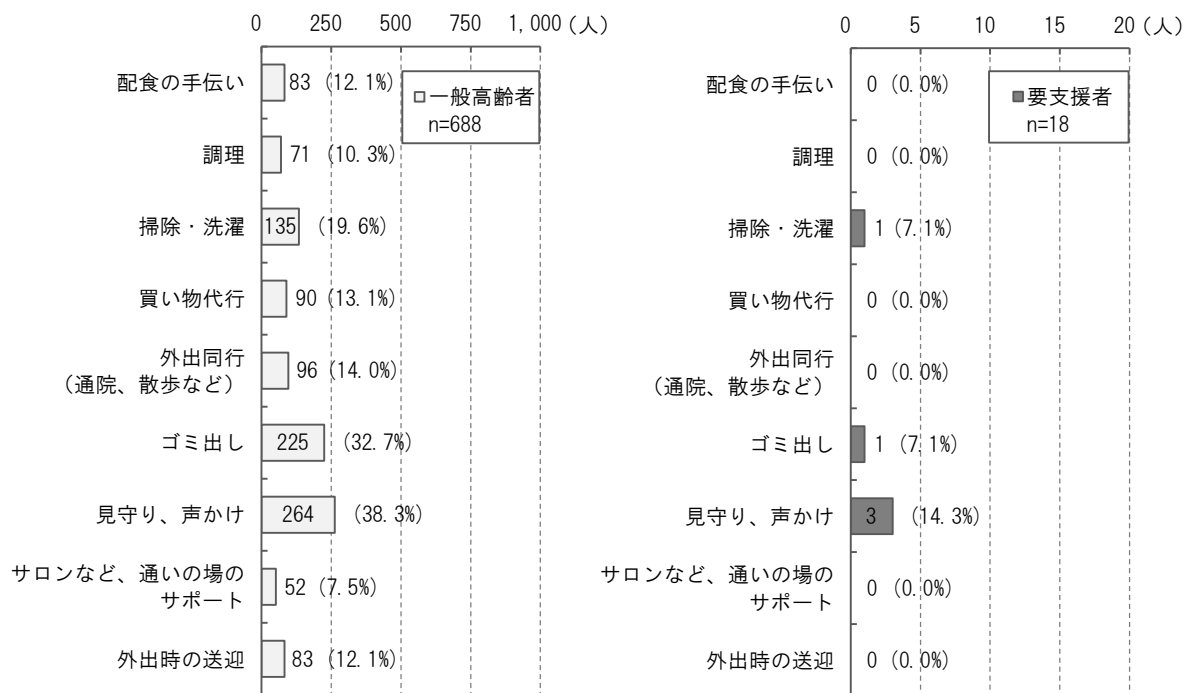
図 4.15 高齢者の地域支援意向（推計）



東地区



西地区



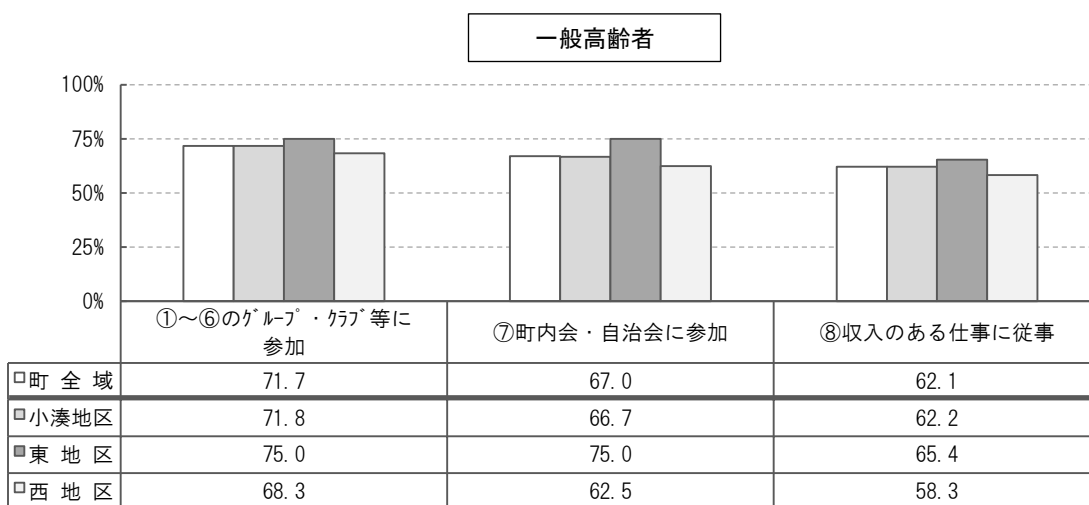
(3) 社会参加と生きがい

○一般高齢者が参加している地域活動の種類別に生きがいを感じている割合をみると、町全域では「①～⑥のグループ・クラブ等に参加」(71.7%)が最も高く、次いで「⑦町内会・自治会に参加」(67.0%)、「⑧収入のある仕事に従事」(62.1%)となっています。

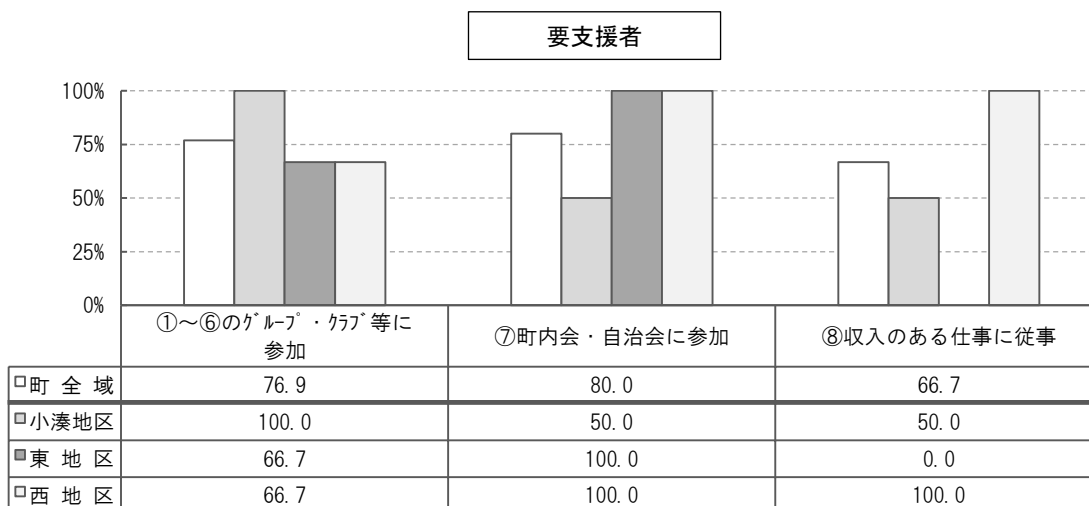
(以下、要支援者は対象者が少数のため、コメントを省略します。)

○地区別にみると、一般高齢者は小湊地区で「①～⑥のグループ・クラブ等に参加」(71.8%)、「⑧収入のある仕事に従事」(62.2%)、東地区で「①～⑥のグループ・クラブ等に参加」(75.0%)、「⑦町内会・自治会に参加」(75.0%)、「⑧収入のある仕事に従事」(65.4%)が町全域より高くなっています。西地区ではいずれも町全域より低くなっています。

図 4.16 地域活動参加者が生きがいを感じている割合



※母数は地区別・参加グループ別で異なるため表記していません。



※母数は地区別・参加グループ別で異なるため表記していません。

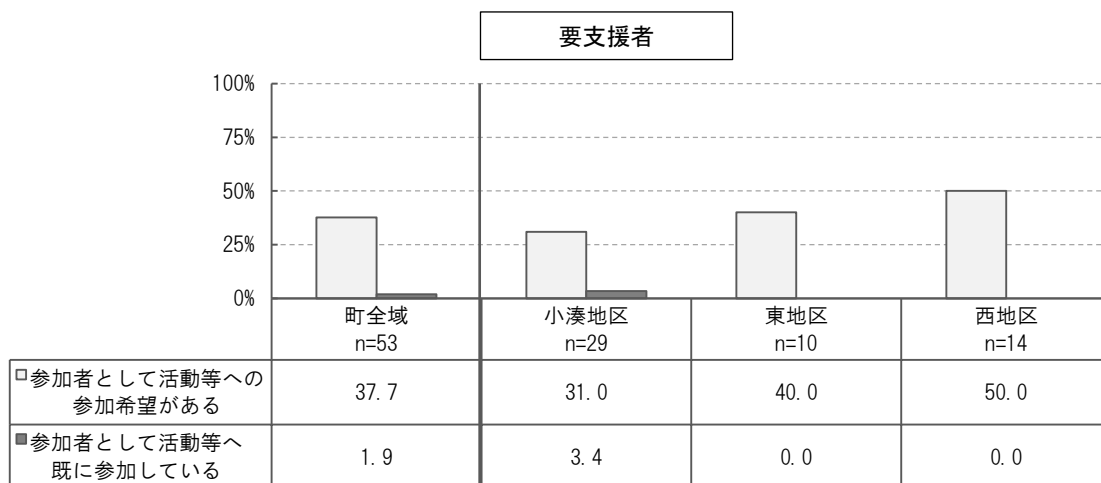
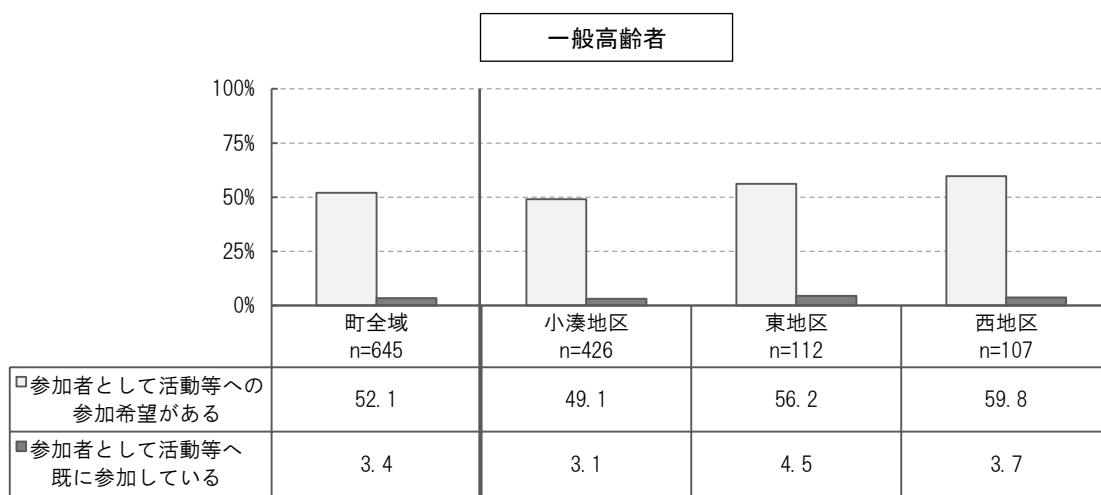
○地域活動に参加者として参加したい一般高齢者は、西地区（59.8%）・東地区（56.2%）が町全域（52.1%）より高くなっています。

○また、「既に参加している」一般高齢者は、東地区（4.5%）・西地区（3.7%）が町全域（3.4%）より高くなっています。

○地域活動に参加者として参加したい要支援者は、西地区（50.0%）・東地区（40.0%）が町全域（37.7%）より高くなっています。

○また、「既に参加している」要支援者は小湊地区（3.4%）のみとなっています。

図 4.17 地域活動に参加者としての参加意向



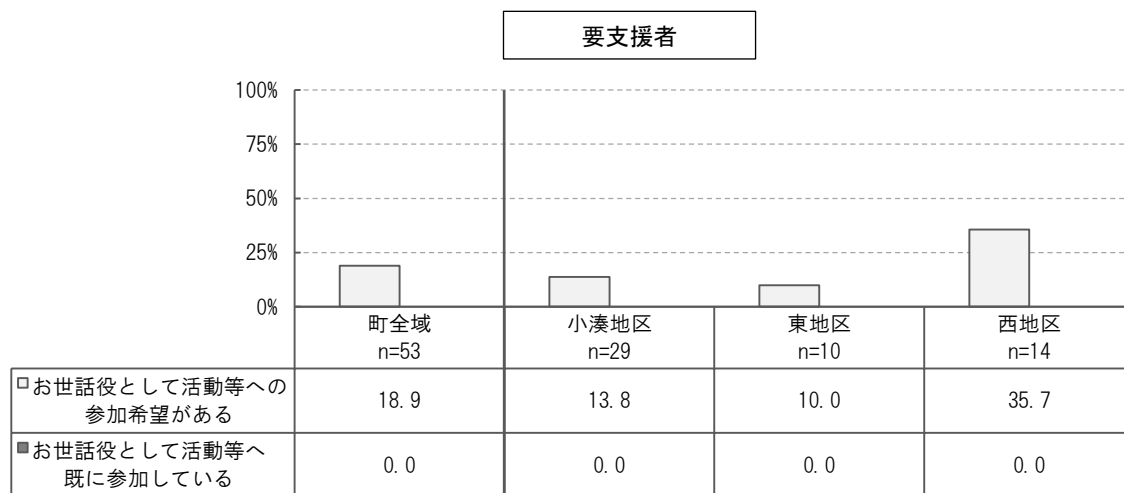
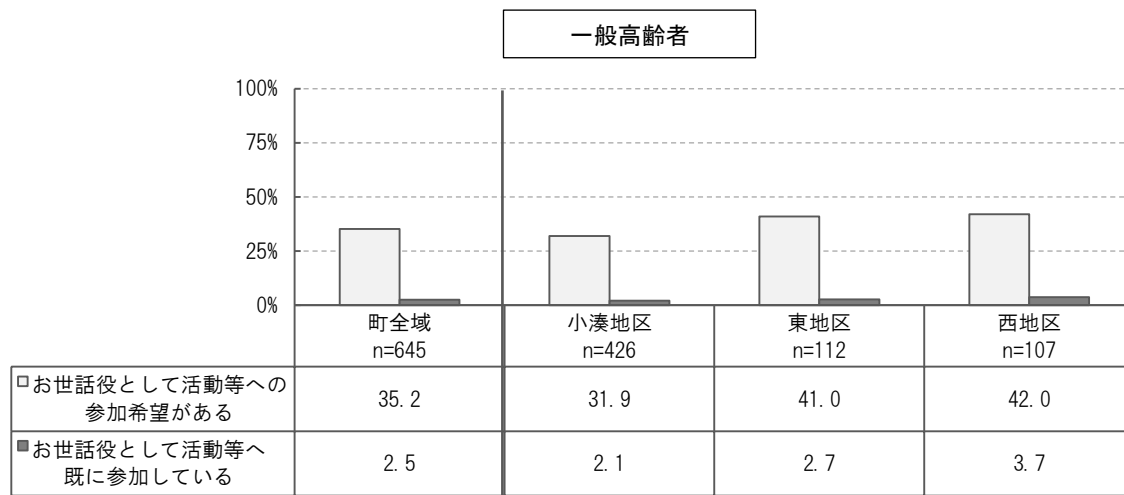
○地域活動に企画・運営（お世話役）として参加したい一般高齢者は、西地区（42.0%）・東地区（41.0%）が町全域（35.2%）より高くなっています。

○また、「既に参加している」一般高齢者も西地区（3.7%）・東地区（2.7%）が町全域（2.5%）より高くなっています。

○地域活動に参加者として参加したい要支援者は、西地区（35.7%）が町全域（18.9%）より高くなっています。

○また、「既に参加している」要支援者はいません。

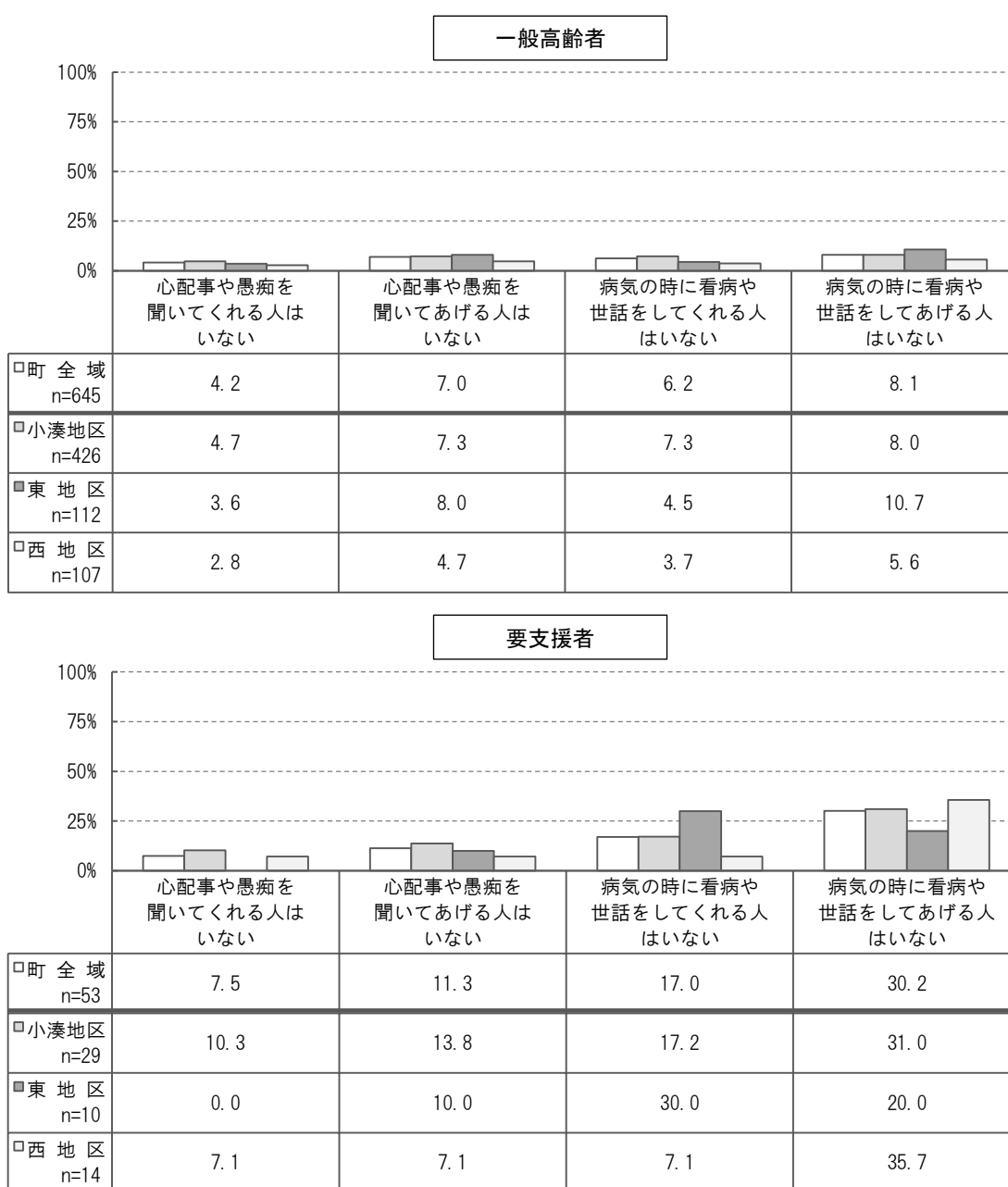
図 4.18 地域活動に企画・運営（お世話役）としての参加意向



○たすけあいの状況をみると、町全域の一般高齢者・要支援者ともに「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」(8.1%・30.2%)が最も高く、次いで一般高齢者は「心配事や愚痴を聞いてあげる人はいない」(7.0%)、要支援者は「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」(17.0%)となっています。

○地区別にみると、一般高齢者・要支援者ともに小湊地区は「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」以外はいずれも町全域より高く、東地区の一般高齢者は「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」(10.7%)、「心配事や愚痴を聞いてあげる人はいない」(8.0%)、要支援者は「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」(30.0%)、西地区は「病気の時に看病や世話をしてくれる人はいない」(35.7%)が町全域より高くなっています。

図 4.19 たすけあいの状況



※問6(1)~(4)で、「そのような人はいない」と回答した割合です。

5 高齢者の公共交通機関の利用状況

○外出する際の公共交通機関の利用率をみると、町全域は一般高齢者が22.2%、要支援者が24.5%となっています。

○地区別にみると、一般高齢者は小湊地区(24.4%)・西地区(24.3%)が町全域より2.2^{ポイント}・2.1^{ポイント}高くなっています。

○要支援者は、西地区(42.9%)・東地区(30.0%)が町全域より18.4^{ポイント}・5.5^{ポイント}高くなっています。

図 4.20 高齢者の公共交通機関利用率

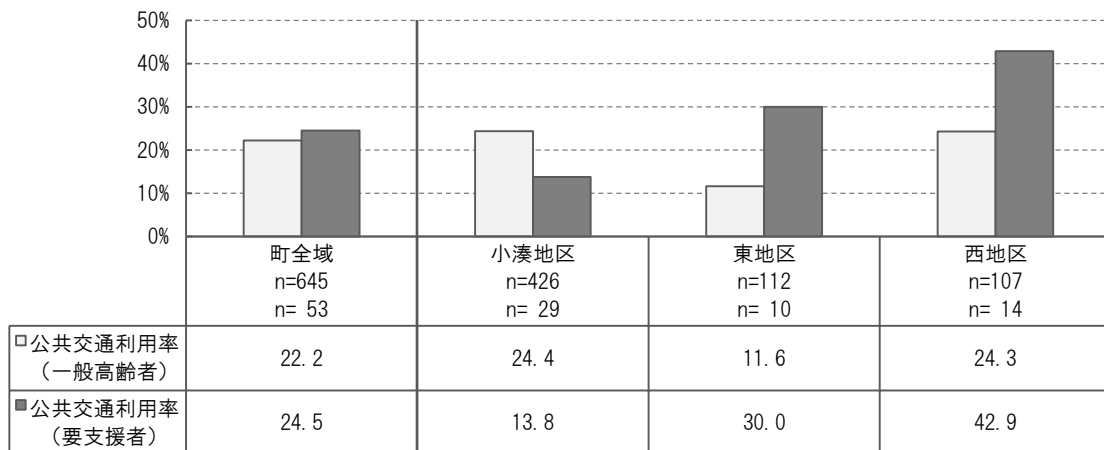
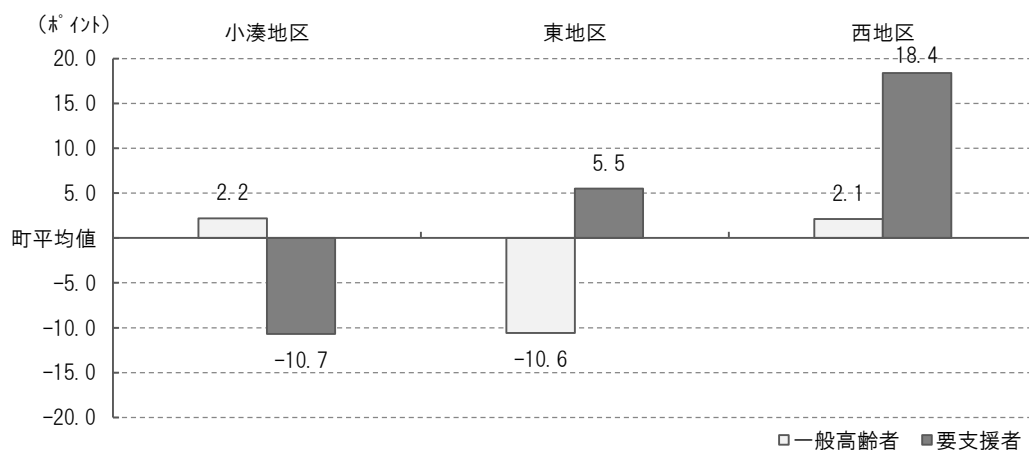
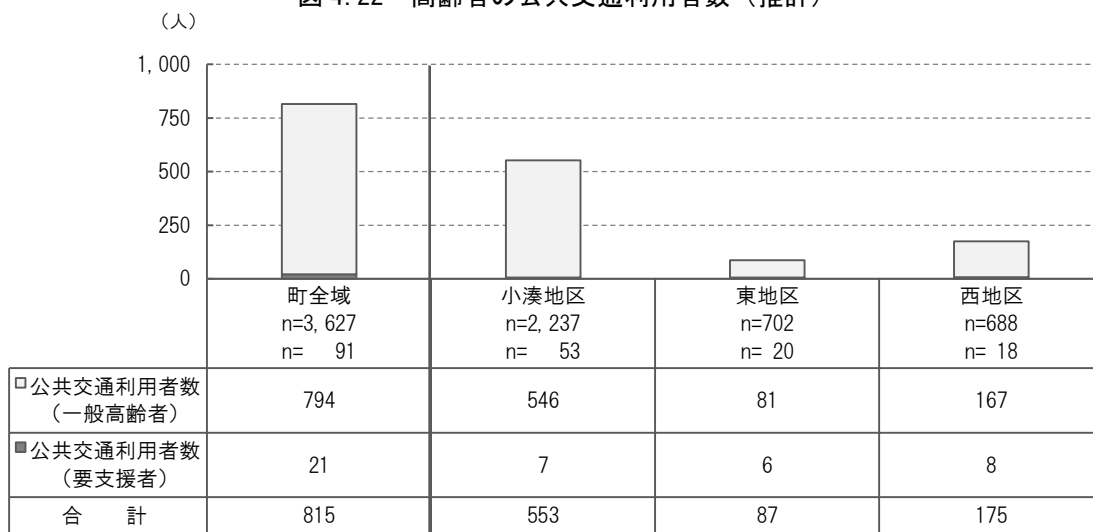


図 4.21 高齢者の公共交通機関利用率の地域差



○公共交通利用者の推計人数をみると、町全域では800人強、小湊地区は600人弱、西地区は200人弱、東地区は100人弱となっています。

図 4.22 高齢者の公共交通利用者数（推計）



6 健康について

(1) 高齢者の健康感や幸福感

① 一般高齢者の主観的健康感

○一般高齢者の主観的健康感をみると、町全域は「まあよい」(67.4%)が最も高く、次いで「あまりよくない」(16.7%)、「とてもよい」(11.0%)となり、地区別でも同様の傾向となっています。

○また、主観的健康感で「あまりよくない」と「よくない」の合計を地区別にみると、小湊地区で町全域より0.9ポイント高くなっています。

図 4.23 主観的健康感

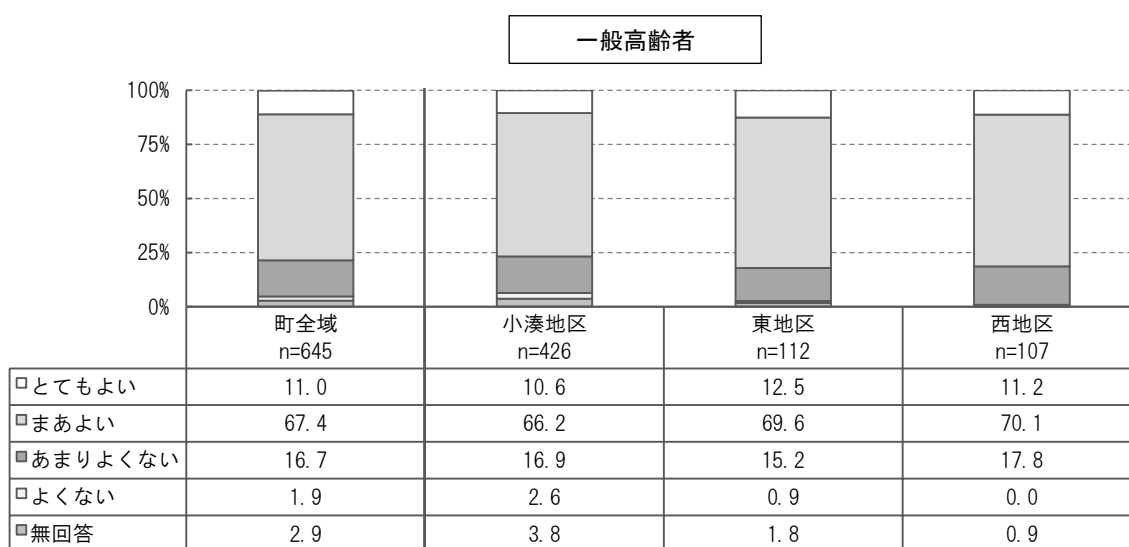
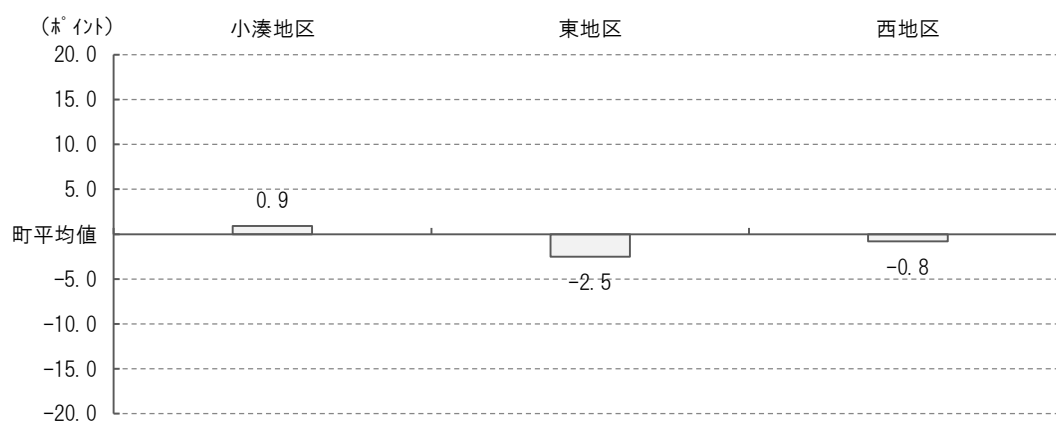


図 4.24 主観的健康感（「あまりよくない」＋「よくない」）の地域差



② 主観的幸福感

○主観的幸福感の平均点数をみると、町全域は一般高齢者が6.9点、要支援者が6.4点となっています。

○平均点数の地域差を地区別にみると、一般高齢者は東地区が町平均値より0.4点、西地区0.2点が高く、要支援者は小湊地区が0.5点高くなっています。

図 4.25 主観的幸福感（平均点数）

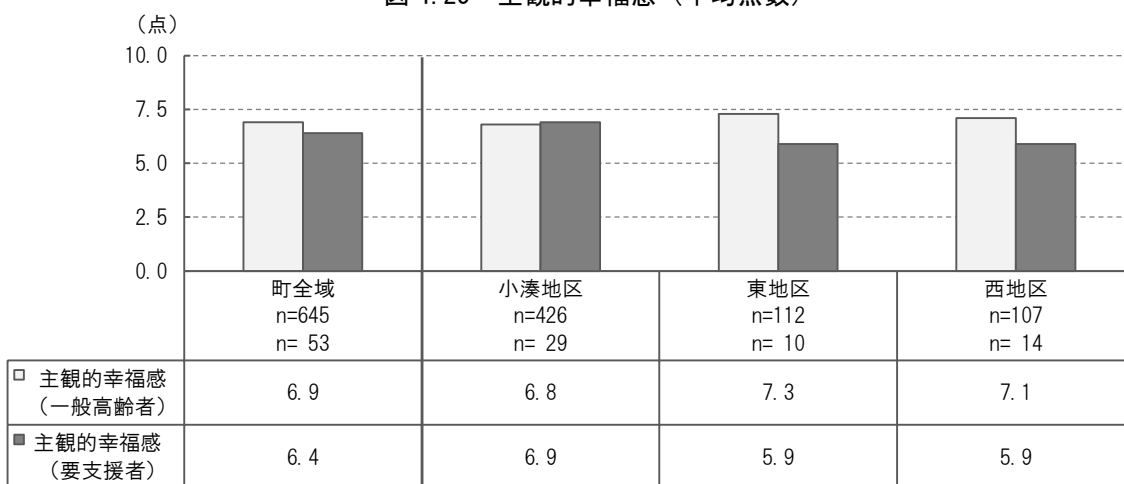
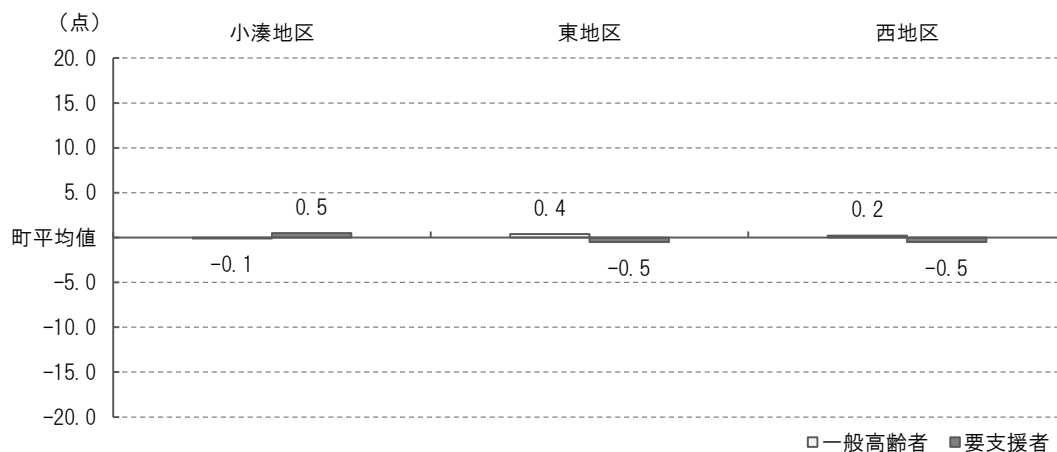


図 4.26 主観的幸福感の地域差



(2) 誰かとともに食事をする頻度

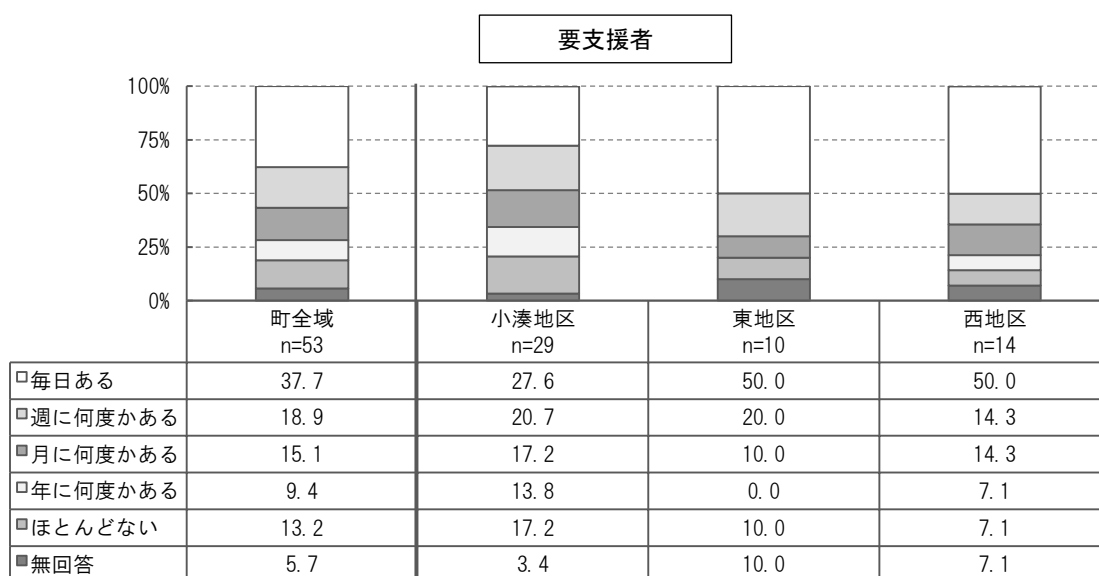
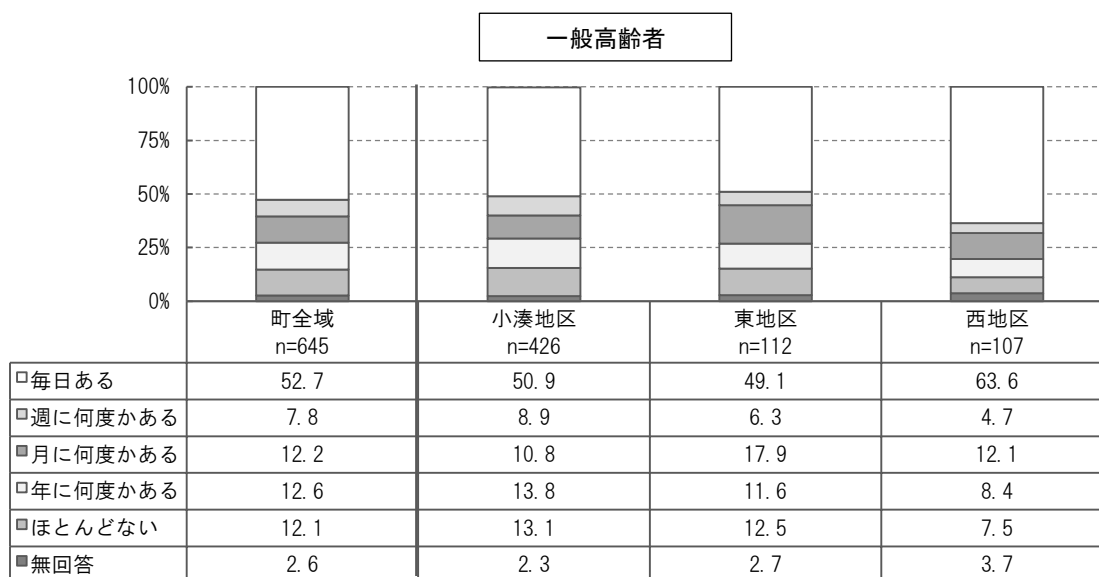
○一般高齢者が誰かとともに食事をする頻度をみると、町全域は「毎日ある」(52.7%)が最も高く、次いで「年に何度かある」(12.6%)、「月に何度かある」(12.2%)、「ほとんどない」(12.1%)となっています。

○地区別でも、順位は異なるものの町全域と同様の傾向となっています。

○要支援者をみると、町全域は「毎日ある」(37.7%)が最も高く、次いで「週に何度かある」(18.9%)、「月に何度かある」(15.1%)、「ほとんどない」(13.2%)となっています。

○地区別にみると、小湊地区は「週に何度かある」(20.7%)、「月に何度かある」「ほとんどない」(各17.2%)、「年に何度かある」(13.8%)、東地区は「毎日ある」(50.0%)、「週に何度かある」(20.0%)、西地区は「毎日ある」(50.0%)が町全域より高くなっています。

図 4.27 誰かとともに食事をする頻度



○町全域で、誰かとともに食事をするのが「ほとんどない」一般高齢者は12.1%、要支援者は13.2%となっています。

○地域差をみると、小湊地区は町平均値より一般高齢者が1.0^{ポイント}、要支援者が4.0^{ポイント}、東地区は一般高齢者が0.4^{ポイント}高くなっています。

図 4.28 誰かとともに食事をするのが「ほとんどない」高齢者の地域差

